企業名：　大和ハウス工業

レポート名：　「統合報告書 2022」

1.　この会社が目指している将来の姿が理解できるか

創業 100 周年に向けて創業者の精神を継承してこれからのグループの羅針盤となる「将来の夢」を策定するプロジェクトを実施されております。この内容について、公式サイトだけでなく PR 動画を作成することによって、「生きる歓びを分かち合える世界」を 2055 年に向けた「将来の夢」として発信されております。よって将来の姿は理解できるといえます。

2.　この会社の現在の競争優位性が理解できるか

統合報告書において、最大の強みとして土地を起点とした複合的な事業提案力を挙げられております。一例としては、長期にわたって築き上げた顧客リレーションから得られるテナント情報、地域密接型の組織体制を活用して、地域社会との協働で事業を進めることができます。よって競争優位性も理解できるといえます。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

第七次中期経営計画のなかで、強みを生かした「持続成長モデル」の構築により差異性と循環の社会インフラと生活文化を創造すると述べられています。この文章や「将来の夢」から大和ハウス工業が持続可能性を重要視していることがわかります。例えば、不動産開発事業は人と金のコストがかかり、回転率も悪いですが、労働人口は減少しつつあるため経済的に持続的な事業とは言えません。経済的な持続可能性以外にも、不動産開発が環境に与える負荷など環境持続可能性があります。これらを考慮して不動産開発事業を推進するために、カーボンニュートラル計画による環境負荷低減や従業員の働きがい実感度最大化などによる雇用安定化に努められています。よって、競争優位性には持続可能性があります。

4.　この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

できると思います。将来の夢プロジェクトの際も、ステークホルダーや役員だけでなく従業員を交えた議論を行って策定しているため、従業員の意思を重んじる会社だと思いました。さらに、創業者精神を受け継ぐビジネスモデルに「事業を通じて人を育てる」があり、具体的には現場主義や積極精神、働きがい、柔軟な発想力、外部評価の獲得をこのビジネスモデルの項目に挙げています。このことから、創業以来人的資本の価値向上に努められていることがわかります。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書の良かった点としては、第七次中期計画の説明の前に第六次中期計画の振り返りを行っていることです。株主とフィードバックを共有できていることはよいことだと思います。それと、事業別に戦略、目標を記載していることが良いと思いました。戦略や目標をセグメント別に明らかにできていることは、株主の信頼を得るためにも効果的であると思います。

改善点としては、第七次中期計画の P36 人的資本の価値向上、個のキャリアプランイメージについて、副業の一環としての故郷の町おこしプロジェクトへの参画や次世代の経営者候補の選抜をする D－succeed についてもう少し説明が欲しいと感じました。

以上です。